

無級 白帯 これから スタート	10級 オレンジ帯	9級 オレンジ帯 銀線付	8級 青帯	7級 青帯 銀線付	6級 黄帯	5級 黄帯 銀線付	4級 緑帯	3級 緑帯 銀線付	2級 茶帯	1級 茶帯 銀線付
※昇級審査受審には本部会員登録【IKOポータル】の登録が必須となります										

武道としての極真空手

【幼年・小学生 限定】

【自立心】

親と子の距離感の話です。特に空手に関する事だけでも、自立心を養う方向でお子様を育ててあげて欲しいと思います。

空手の用意は自分で。出来ないことがあれば、子供からお願いをさせる。こちら(保護者様)から出来るだけ働きかけない。

やってあげると必ずお礼を言わせる。送り迎えも一緒です。当たり前にはせず、必ず御礼を言わせてください。

そこで子供は自分の立ち位置を学びます。子供達の自立心獲得にご協力をお願い致します。

【協調性】

協調性獲得ためには先ず他者との適切な距離感が重要です。距離感の獲得は、自らの立ち位置を明確し、理解することで初めて可能となります。

『先輩』と『後輩』、『指導者』と『生徒』、『初心者』と『熟練者』

自らと、他者との属性の違いを認識することで、お互いに尊重し、協調が生まれます。

昨今重要視されている多様性。これと協調性は対極ではありません。他者と協調出来る事で、多様性(個性)は大きな価値を生みます。

【躰(しつけ)】

身を美しく書いて躰(しつけ)と読みます。昨今の多様性を重視する価値観の中では化石の様な考え方かも知れませんが、極真会館徳田道場では、礼儀作法を初めとして、立ち居振る舞いについて厳格に要求します。

【整列について】

整列が出来ない子供が増えています。極真会館徳田道場では整列の際に「1cmもズレるな」と指導します。

整列が苦手な子供は自分がズレている事に気が付いていません。拡大解釈すると、他人の足を踏んでも気が付いてない子供達です。踏んだ方に悪気は無く、踏まれた方は敵意を持ちます。そして諍いに発展します。

子供に尋ねます。「100 人の味方がいる人生と、100 人の敵がいる人生、どっちが良い?」と。

答えは言うまでも無いですね。些細な気遣いが出来ることで協調性を生み、その子供の人生を豊かなものにします。

競技としての極真空手

【幼年・小学生 限定】

【勝利至上主義 ≠ 勝負偏重主義】

昨今、ジュニア世代における競技大会の是非が問われています。保護者や指導者などの周囲に過度な期待を受け、勝利を要求され、燃え尽きる。勝利至上主義の悪い影響です。

ジュニア期で活動を終えてしまったり、短絡的な勝利を求めるが故に、継続しても、成人した後に大成しないケースは多いです。

極真会館創始者大山倍達は生前たくさんの名言を残しました。提唱したものの一つに、『勝負偏重主義』というものがあります。

勝負偏重主義とは『勝利からも敗北からも学べ』です。出た結果から逃げず、自らを現状分析する。そのための尺度の一つとして、競技大会は必要だと考えます。

前述した勝利のみを追求する勝利至上主義とは一線を画す考え方です。

【競い合う】

技を競い合うと書いて【競技】です。昨今の学校教育や、それに留まらず世間一般でも、競い合うこと、摩擦が生じることを『非』とし、弱いこと、負けることを『是』とする風潮です。

簡単に言えば、『世の中はそんなに甘くない』です。

正々堂々と競い合い、互いに切磋琢磨することは、人を育てる上では必要不可欠な経験です。そして、そのプロセスが楽しければ尚良いです。

競技会への積極的な参加を促すようお願い致します。